

思いやりの花を咲かせよう

長岡第三中学校

二年生

土井

花音

「今、どうするべきか。」

その時、私はとても迷った。

数日前、私が乗ったエレベーターに、白杖をついた女の人に乗ってきた。そのエレベーターは幅が狭く、一階に着いて、私が開ボタコを押しているとき、出口を少し塞いでしまう形になるのだ。私はどうするべきか迷った。女

の人が白杖を左右に振るときに、私が邪魔になるのではないかと考え、一旦降りたが、扉が開まらないか心配で、出口の妨げにならないように立ち、扉を手で押さえた。すると、白杖を左右に振り、出口の幅を確認しながら出てきた女の人が、私の方を向いて会釈をして歩いていった。私はこれでよかったんだとホッと温かい気持ちになった。このような場面が今まで何度かあった。お年寄りに席を譲るか迷った時も同じ感情だ。

た。それは今、相手に助けが必要なのか、それとも相手にとって、は日常で、自分のペースでやれば済むことなのか。という迷いで、行動に移すことを躊躇うのだと思う。

白杖をついていても、少し見えている人もいれば、全く見えていない人もいる。それは、その日、町で出会ったばかりではわからない。その人は自分でエスケーターから降りていつものルートで生活しているだけなのかもしれない。私が行きすおた助けや、声かけをする

ことで、相手に失礼なことをしてしまっているのかもわからない。

そのような気持ちの迷いは誰にでもあるのではないのだろうかと思った。そこで、私は障がいを持つ人の視点で物事を見たり、考えたりしたいと思い、調べてみた。そしてノーマライゼーションという理念を知った。それはまさにその時、私が迷う原因となった。相手の権利についてだ。以前は障がい者を健全者が守るといって考えたが、

今では障がいのある人がない人と同等に生活し、自分である権利を尊重する考え方だと書かれています。その例として挙げられるのが、バリアフリー化・ユニバーサルデザインである。バリアフリーは多様な人が社会に参加する上での障壁（バリア）をなくすることである。例えば、視覚障がい者を援助するための駅のホームドアや展示プロットがある。ユニバーサルデザインはすべての人のためのデザイン化という意味で、例としてはシャップリーの突起や多目的トイレなどがある。そして、世界では様々なバリアフリー化やユニバーサルデザインが進められている。例えば、アメリカはそれぞれが日本より進んでおり、アメリカの鉄道駅では、階段だけでなく、スロープでもプラットフォームホームにアクセスできたり、バスに自動開閉式のスロープがついていて、乗務員は運転席に座ったままボタンを押すだけで自動スロープが出来る。デザインは障がいを持つ人、自分でする権利を尊重している。ま

たに障がい者を特別視せず、社会の中で普通の生活が送れるように街の整備を整えると同時に、人の心の壁もなくすることが大切だと思います。障がい者や困っている人を見かけたとき、何もしない人がいる。でも、そのほとんどの人たちが見て見ぬふりをしてしているわけではなく、今回の私のように手助けをするべきか、それとも相手の「自分でする権利」を守るべきか迷っているだけなのだと思います。その時点で、障がいを持った人の人権を考えていることとであり、思いやりの種が生まれていると思う。でも、心で迷ったりしているだけでは相手に通じることはなく、言動に表して初めて心が通じ合うのである。私は今回小さな行動だけど、それが、思いきって行動を移して良かったと思っっている。また、相手の人の会釈により気持ちを受け取ってくれたことかわかり、お互いにか温かい気持ちになっ、思いやりの花が咲いた。今回のように心が通じ合い、たくさ

んの思いやりの花が世界中に咲き広がればい
いと思う。咲き広がれば、もっと豊かな社会
になっ ていくだろう。

障害があるないに関わらず、全ての人が共
に生きていく。そして自分にできることは何
か考え、迷いながらも、みんなが心のキャッ
千ポールしなから、自分らしく幸せに生きて
いけることを願っている。